

〈今月の特集〉
尾かじりと膿毒症



豚もストレスでイライラ…尾かじりが膿毒症につながることを、知っていますか？

「尾かじり」

ほとんどが舎飼いの肥育豚に発生し、原因は様々なストレスです。尾が欠けるだけでなく、ストレスによる発育遅延、二次感染による**膿毒症**や骨髄炎を引き起こすこともあります。

「膿毒症」

膿瘍の菌が血流などに乗って全身に回り、中毒症状を起こしたり、別の場所に膿瘍を作ったりしている状態です。**膿毒症**で廃棄される豚に**尾かじり**が見られることも多いです。

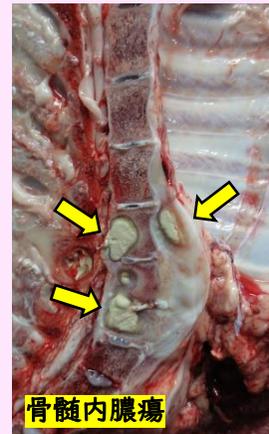
対策

- ①換気環境の見直し
- ②飼養密度の調整
肥育豚110kg:0.77㎡/頭
(「アニマルウェルフェアの考え方に対応した豚の飼養管理指針」畜産技術協会作成参考)
- ③塩化ナトリウムの添加
- ④かじれる代替物の設置
(鎖や紐など)
- ⑤犯豚探しと隔離
- ⑥アニマルウェルフェアに配慮した苦痛の少ない断尾

かじられなくて快適!



このイラストはAIによって作成されました



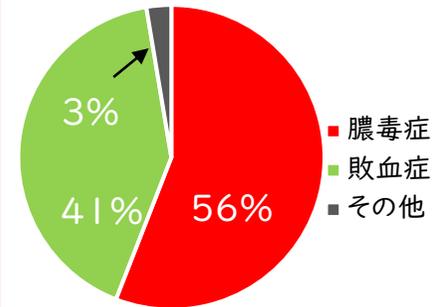
骨髄内膿瘍



骨盤腔内膿瘍

尾かじりの豚では骨髄(黄矢印)や骨盤腔内の筋肉に膿瘍(黄丸)ができることがあります。

県立の食肉衛生検査所等(R6年度)における全部廃棄内訳



*と畜検査において「全部廃棄」に占める**膿毒症**の割合は高く、**1位**となっています。

「尾かじり」から「膿毒症」を引き起こすことがあり、全部廃棄処分になると**経営に大きな損失を与える可能性**があります。尾かじり防止のためには、豚舎でのストレス(密飼いや換気不良など)の軽減が重要です。